

アジア経営学会第19回全国大会（2012年、国士館大学）統一論題趣旨

統一論題：アジアにおける競争と共生のメカニズム

統一論題趣旨：

第19回全国大会の統一論題に「アジアにおける競争と共生のメカニズム」が定められた背景として、われわれは現在のアジアにおいて確認される次の二つの「現実」を改めて想い起こす。

第一は、近年アジア企業の事業展開がますます広域化・複雑化し、それに伴い企業間の競争と協調が一層の深まりを見せていることである。事業活動の展開は、アジア諸国間での国際分業を一層促進し、グローバル次元での経営展開へとつながっている。現実の姿に基づいてその実態を明らかにし、将来像を展望する作業が、今求められている。第二に、そのような企業活動が所得と雇用を生み出し、経済成長をもたらしている反面で、貧困解消をはじめとする社会的諸課題が未解決のままになっているという厳しい現実が存在している。

ここで注目すべきがBOPビジネスの広がりである。今までの貧困層を新たな市場としてとらえる時、BOPマーケットは巨大な規模を誇る。目標としての貧困層の解消に向かい、様々な要素、すなわち政府、国際機関、NGO、現地コミュニティ、そして多国籍企業と地場企業を含む業種・国籍の垣根を越えた諸企業が結びつきを持って協働している。貧困克服のパワーが、そこから生み出されているのである。

アジアにおける「先進的」な動きのひとつが、多国籍企業の進出国・地域との共生ではないだろうか。多国籍企業と現地企業、NGOとの協働により新たなビジネス生態系が構築されつつある状況は、注目に値する。進出企業は、現地各層との密接な関係を構築しつつ現地との共生を図ることで現地の貧困層の解消、さらには経済的繁栄に貢献し、最終的には自らの利益拡大をも実現する構造を作りつつある。それは古くから指摘してきた国際下請構造とは異なり一方が他方を支配ものではなく、持続可能なビジネス生態系に向かうものである。アジアの企業には、この動きを促進し全体としての生態系という共生メカニズム構造の核になるべき重要な役割が与えられているのではないだろうか。

第19回全国大会は、以上のような2つの「現実」に対する問題意識の上に立って開催される。まず自動車産業を切り口として韓国・現代自動車、中国・奇瑞汽車を代表事例として、多国籍企業と現地企業の競争と協調のありようを考察したい。と同時に、アジアにおけるBOPビジネスの実態を明らかにし、企業活動がつくりだす共生のシステムの到達点を明確化したい。なお後者については、アジアにおける共生を意図した事業戦略を展開している代表的企業の経営者を招いての特別講演を企画している。